三島労山飯豊山事故報告

三島労山飯豊山事故報告書から

１．事故発生状況

２００５／７／２４　　志村政利

行程概要

２００５年

７／２０

三島－米沢－小国－飯豊山荘　泊

７／２１

飯豊山荘出発		６：００
石転び沢出会	到着	８：２０
北俣沢出会	到着	１１：４０
梅花皮小屋	到着	１５：２０頃

石転び沢出会い以降の行動状況

７／２１

梅花皮沢の左岸の登山路を登って石転び沢出会で雪渓を横切り石転び沢の下から見て左端を少し歩いた後リーダーの指示でアイゼンをつけた。

石転び沢をそのまま登る。途中で下ってきた山形県警の人たちと 梅花皮小屋の管理人関さんと出会い関さんから上の状況を志村が聞く。このまま上がっていくと夏道の入り口に旗が立っているからそこで夏道に上がれば後は旗をたどっていけば今日のガスの状態では大丈夫といわれた。遙か上の方に数人以上の人影が動くのがみえた。

行く手に 雪渓を横に横切るクレバスが現れ通過地点を探して適宜方向を変えた。この時点でメンバーが多少ばらけた。

夏道の入り口の旗が見え各自その方向に進んだ。リーダーを除く４人が夏道に上がり、リーダーの到着を待ち、全員一緒に夏道を上がった。夏道の入り口から道沿いに何本かの旗が立てられていた。

途中休憩をしながら夏道上を上がっていくと黄色い旗が見え、ここまでは正しい道を来たことを全員で確認した。このころからガスが少し濃くなり見通しが悪くなってきた。さらに道は上につながっているように見えたので次の旗を探してこの旗を通過して上に進んだが陸地が終わり雪渓にぶつかった。

上を見ると近くに陸地が見えたので（数m少しくらいではなかったかと思う）そちらに続いているのではないかとの判断で雪渓を上に登り陸地に着き全員で図１のA点に到着。更に上に陸地が見えた。直接上に行くより右上方にトラバースするのが最短コースと思われた。

このころか少し後かはっきりしないが、左の方向からコースはこちらだとか、人声を聞いている。また左上方から鐘の音などもあった。

A点から上の陸地を目指して蔵元さんを先頭に図１の様に移動開始。リーダーを除く４名が雪上に出て少し後リーダーを確認しようとしたが見あたらなかった。４人で

名前をさけんだ。下の方でリーダーらしき声が一度聞こえたがその後聞こえなかった

その時点で以前に声の聞こえた左方向に向かった方がよいと判断し、図１のように左に反転した。以下図１に示すよう経過で蔵元さんと志村・尾崎・井上グループに分かれたまま小屋を目指して進んだ。

３人が最初に小屋に到着。蔵元さんが来ていないので北俣岳方面に少し登って蔵元さんを探しに行ったがわからず、小屋に戻ってリーダーの情報を上がってきた人から集めている内に蔵元さんが到着。とりあえず小屋に１名未到着だがといって宿泊手続きをした。

クレバスで動けない人がおり、一人付き添っているとの話を聞きいろいろ確認したところリーダーらしいと思い小屋の管理人、付き添っている人のパーティーの一人と下に下り、陸地に接したクレバスの中に横たわっているのがリーダーであることを確認した。梅花皮小屋からリーダー停止位置までは図２のようである。距離は空身で下り２０分程度か。

確認した状況

付き添いの人が体の下にシュラフカバーなど敷いてあり、頭が少し下向きになっていた。付き添いの人の話では背中が痛いといっているので背骨が折れているかもしれないといっていたが、話しかけると志村さん来てくれたかとか皆さんに済まないと言った。４人は小屋に無事着いたことを話した。

手足が動くかと聞いたところ少し動かしてみせた。胸が非常に苦しいと訴えうめくような声を出していた。ザックとストックは近くにあった。

小屋の管理人を中心にこれからどうするかを検討したが、ヘリコプターは天候が悪く飛べない。上に運び上げるのは無理。少し暗くなってきたので保温と雨対策をして翌朝の救助隊の到着を待つことになり小屋から毛布、シート、ツェルトなど取り寄せ、また付き添ってくれた人がエアーマットを提供してくれ、からだをしっかりくるんで明日の朝までがんばるよう口々に叫んで離れた。

７／２２

早朝、小屋管理人、たまたま小屋にきていた地元山岳会の小国山岳会会長（後でわかった）と確認に行ったが既にかたくなっていた。山形県警救助隊の到着は２時間後くらいとのことで小屋に戻り、到着にあわせて再び現場へ行った。

このときもヘリは直接現場に来られないが下はガスが切れているので背負って下りヘリでおろすことになり、救助隊員に背負われて下るとところを確認した。我々４人の今後の行動を県警の隊長に相談。梶川尾根を下るよういわれた。現場に来てくれていた会長が付き添ってくれることになり小屋に戻って荷物をまとめ９時過ぎに下山。会長と同行してきたパーティー３人とともに８名で歩行し１６時頃下山、三島労山の救助隊の出迎えを受けた。

２．救援・救助活動・事故処理

杉本忠義

7月21日（木）

(17:50 飯豊パーティーの蔵元さんから杉澤宅に事故第一報。「毛利さんが滑落した。私たち４人は梅花皮小屋にいる。どうすればいい?」。救助活動は地元に任せるよう伝える。)

例会時に毛利さん滑落の報告。通常例会を中止し事故対策に切り替える。
以下の救助隊と留守本部を編成する事に決定。
第１班は　布施、藤巻、山口、杉本の４名が22:00時事務所に集合、出発。
第２班は杉澤康秀、杉澤好子、毛利さん次男の３名が23日早朝に出発。
留守本部は疋田雅野、杉本代梅子が事務所に詰めて連絡を取り合う。

7月22日（金）

7：10　小国警察署到着　挨拶の後若干の説明を受け、山形新聞の記事を見せてもらう。

7：35　小国警察署より説明　これ以下は（警察）と記す。
５：３５分に梅花皮小屋の管理人が確認したが意識は無い模様。クレバスからは管理人が出した。保温対策は行なった。昨日は意識があった。背中が痛がって動かす事は出来なかった。捜索の必要は無いので我々はここで待機するようとの指示を受ける。現在視界は 20～30m、風は無いがヘリは飛べそうにない。遭難場所は梅花皮小屋から100mくらい下ったところ。

7：00　留守本部疋田さんに連絡。蔵元、尾崎、井上さんの家族に現状の報告を依頼。内容は「毛利リーダーがケガをしたが他の人は無事で小屋に待機」

7：08（警察）7：08救助隊第一陣が現場到着、状態は厳しいようである。

7：17（警察）他の隊員も到着。ヘリは今のところ飛べない。防災ヘリが山形空港に待機している。

7：20　県連後藤理事長に報告。

8：14（警察）救助作業中、防災ヘリが8：11にフライトしたが現場の視界 40～50m、現場に行けるかわからない。ほかの４名は小屋に留まっている。

8：32（警察）8：15救助活動がはじまった。残り４名は地元山岳会の人３名が同行して梶川尾根を下るように指導している。毛利さんは草付きの中の島から雪渓上を左に行くべきところを右に間違えてしまったのではないか。

8：42（警察）残り４名は梶川尾根を9：00下山開始。小国山岳会の高橋会長ほか４名が同行している。飯豊山荘に下りてから小国警察に同行してもらうが足が無い。車を出すように協力要請を受ける。

9:31　捜査係長より三島労山の事情聴取を受ける。内容はほぼ以下のとおりである。この事故に事件性があるかどうかで捜査するのである。

- ４人のメンバーの登山歴　　今回のようにリーダー死亡でなく他のメンバーがなった時は業務上過失傷害事件となる可能性がある。登山歴1～2年の経験の少ない人を連れて行った場合はリーダーの責任を問われる場合がある。
- メンバーの選定はどのようにしたか。

●計画を審議する部門はあるのか
● 毛利さんは飯豊山に何回登った事があるのか。他のメンバーは？
● 会の年間行事、訓練はどのように行なっているのか。雪山もやっているのか。
● 登山計画書は必ず出すのか。
● 保険には全員が入っているのか。（保険に駆け込み加入があると事件性の可能性も疑われる場合がある。）毛利さんは５口加入、今回は県警の山岳救助隊が昨日から飯豊山で訓練を行なっていたため経費はそんなにかからないだろう。昨日も自力下山の事故が会ったばかりである。
● 毛利さんは仕事をしているのか。
● 死亡確認を受けた時の搬送はどのようにするのか。車で搬送すると大きな金額が必要になってくる。
● 小国山岳会は役場の町民課が窓口になっている。
● パーティにはアマチュア無線を携帯して欲しい。

0：06　留守本部に保険金額の確認依頼をする。捜索費用２００万、死亡保険１００万を確認。

0：14　杉澤康秀さんよりＴｅｌ。遺体は霊柩車で三島に搬送したいから警察に葬儀社の紹介を依頼して欲しい。警察に依頼すると、正式に死亡確認が取れたら紹介するとの返事。

0：24　警察より２つの葬儀社の紹介を受ける。

0：28（警察）事情聴取はサブリーダー（蔵元さん）と志村さん、息子さんにお願いしたい。

0：47（警察）４人は門内小屋付近を通過中。遺体は出合いまで降ろした。ヘリの準備をしている。天気は回復中。毛利さんの息子さん、奥さん、本籍を教えて欲しい。

1：11（警察）３回目のヘリ失敗。　こちら側の窓口を藤巻さんに登録

1：38　小国町町民課に杉本、山口さんが行き小国山岳会のことを聞く。
小国町には飯豊・朝日山岳遭難対策委員会が設置されその窓口に町民課がなっている。
飯豊・朝日山岳遭難対策委員会に小国山岳会が入っていて救助の要請があれば出動するのだとの関係が判明。

2：46（警察）ヘリがアタックできない。救助隊がへばっている、一晩現場に置きたい。山岳会でビバーグをして欲しい。門内の出会いまで下ろした。現場の隊長の話では、ヘリで上げなければ人力では無理であるという判断。

3：17　第２班の到着を得て警察の説明を受ける。
今までの経過説明の後、現在もヘリでの搬出のチャンスを見ているのだが出来ない。隊員もへばっている。食料も一食しかない。現在食料を運んでいる。地元の救助隊を編成したが、到着までこれから7～10時間かかる。夜になってしまい危険である。現場に一晩安置して天候の回復を待って吊り上げたい。警察も２名同行するから２名のビバーグ要員を出して欲しい。残り４人は３名のプロがついて下山中。飯豊山荘に１６：００頃到着予定。
外で起こったことは捜査の対象となる。家族の事情聴取、メンバーの事情聴取を取りたい。

（つづく）

三島労山飯豊山事故報告

三島労山飯豊山事故報告書から

今日中に終れば明日帰宅できる。

14：40　事態は急変、ヘリで収容完了の報告あり。

第２班と藤巻さんは町立病院へ行き遺体確認と死亡原因の確認、杉本、布施さん、山口さんは飯豊山荘に４人を迎えに行く。

16：00　飯豊山荘ゲート前で４人と合流

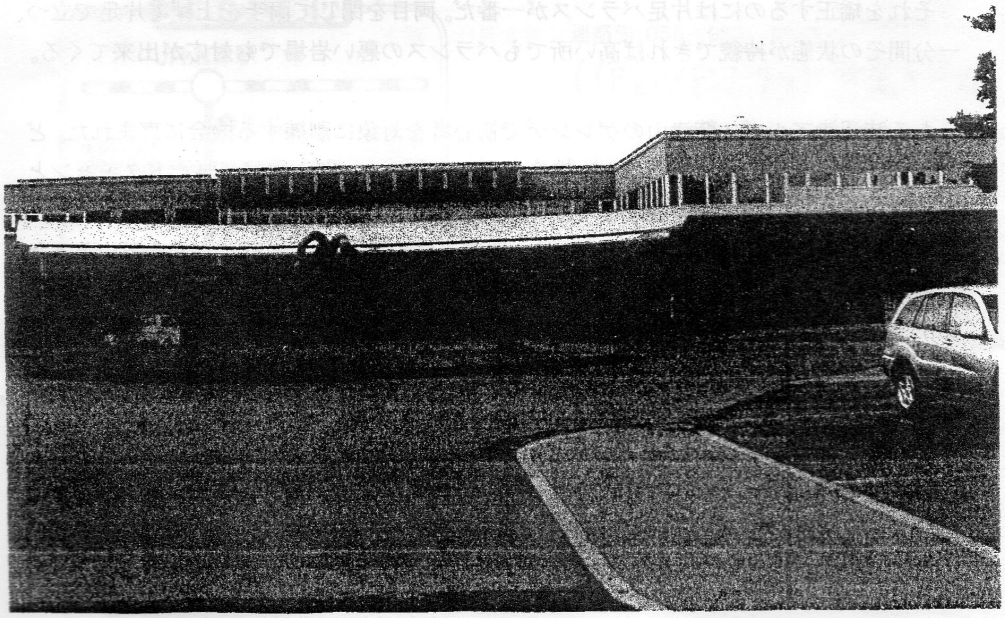
17：00　警察到着後着替えと入浴（警察の心遣いによる）

18：00　全員警察集合　休憩室で４人より状況説明を受ける

その後息子さん、志村さん、蔵元さんが長時間の事情聴取を受ける。終了したのは 22 時過ぎ。その後、葬儀社が手配してくれた部屋で一晩過ごした。

7 月 23 日（土）

第１班は山口さんの勤務の都合上早朝に葬儀社を出発。第２班は毛利さんの遺体と共に三島の葬祭場に向かった。



（２月号のつづき）

2005.7.22（金）　留守本部記録

6:30	留守番	事務所待機開始　現地布施さんへTel　今から待機する旨を連絡 布施さん達、小国警察署にて、これから説明を受けるとの事
7:07	杉本（忠）	警察の説明内容 21日15:20　海花皮小屋の管理人より、警察に通報 毛利さんが石転び沢にて、50m滑落後、2mのクレバスに落ちた 背中を痛め動けない 22日2:00　地元救助隊17名が、事故現場に向かった 22日5:35　海花皮小屋の管理人が様子を見に行ったが、毛利さんの意識無し 警察署の指示により、杉本さん達は、警察署に待機 飯豊メンバーの家族へ連絡して欲しい 事故が起きたけど他のメンバーは、無事に小屋で避難しているとのこと なお毛利さんの意識が無いことは、心配するから伝えない
7:15	留守番	飯豊メンバーの家族/井上美穂子さんへ連絡
8:13	杉澤（康）	雪倉メンバーに連絡を入れて欲しい
8:20	留守番	雪倉メンバーに連絡を入れる(留守電or届かない)
8:30	〃	雪倉メンバーに連絡取れない旨、杉澤さんに報告 杉沢さん:東北自動車道でもうじき羽生
8:34	藤巻	救助開始 ヘリも飛んだ、でも現場まで行けるか分からない 飯豊メンバーは、地元山岳会3名が付いて、梶川尾根を下る予定
8:36	留守番	藤巻さんからの電話内容を杉澤さんへ報告
9:05	杉澤（好）	志村さんからの連絡:今夜は飯豊山荘に泊まる 救助隊は、ヘリが降りられる所まで毛利さんを下ろし、後はヘリで運ぶ予定
9:16	杉本（忠）	小国山岳会の所属先、連絡先を調べて欲しい
9:27	留守番	杉本さんへ遭難対策本部の電話番号を報告 小国山岳会の連絡先分からず、観光協会へ問い合わせたら、 小国町観光協会（0238-62-2111）が、毛利さんの遭難対策本部になっていた. 飯豊メンバーは警察の事情聴取があり、今夜は警察の近くで宿泊予定
10:00	藤巻	警察から多分だめで、死亡確認を残すのみだろうとのこと 毛利さんの遭対基金支給額を調べて欲しいとのこと
10:05	留守番	労山東京本部に問い合わせ （救助200万/死亡の時＋100万） 事故の報告（後で書面の報告を入れて下さいとのこと）
10:10	〃	藤巻さんへ支給額の報告
10:20	杉澤（好）	毛利さん死亡の連絡

		後2時間で、小国警察署へ付く予定
10:22	留守番	県連の後藤さんへ死亡の報告
11:00	藤巻	毛利さんと御家族の生年月日.名前.本籍等の問合せ
11:05	留守番	藤巻さんへ判る範囲の報告
12:06	〃	白井会長へ連絡（留守電）
12:15	県連:後藤	まだ暫く事務所にいますか？との事
12:23	今井	状況の問合せ（亡くなったこと報告）
12:24	白井会長	〃
12:25	県連:後藤	事務所へ来る
12:46	留守番	布施さんに毛利さんがヘリで下りたか尋ねる. ヘリでなく、人力で下ろしている途中、 石転び沢出会まで下りたが、今日中に下ろせるか分からない これから救助に、また山に人が入る予定. 飯豊メンバーを迎えに行く予定（16時～17時） 杉澤さん達は、まだ警察署に着いていない
12:56	杉本（忠）	救助隊は、これ以上人力で下ろすのは無理と判断し今から下山するとの事 明日、ヘリで下ろす 4人で今から、飯豊山荘に向かう その内の、藤巻さんと布施さんは、現場で毛利さんに付添ビバークする
13:15	県連:後藤	川口さんに連絡
14:24	杉澤（康）	13時過ぎに小国警察署から説明を受けたとのこと 事務所は解散して良い
16:15	留守番	杉澤さんへ電話 ヘリが飛んで毛利さんは下りた 検死の結果、肺に損傷 5時に棺が着く予定、ご遺体は今夜は葬儀屋さんの処へ 葬儀は三島の平安会館:日程等の話をしている 明朝帰る予定、時間は決まっていない 飯豊メンバーが、飯豊山荘に下山との報告はまだ無い.
16:30	伊豆ハ:吉川	事務所に来る
17:18	杉本（忠）	飯豊メンバーとすでに警察署に戻っているとのこと
17:22	留守番	飯豊メンバーご家族に報告 下山したこと、今夜は警察署のそばに泊まり、明朝帰る事 毛利さんの怪我の状況を聞かれ、亡くなった事も報告
17:30	留守番解散	
留守番:杉本(代):疋田(雅)　お昼頃から:井上(美):嶋本:小針:遠藤加わる		報告　疋田（雅）

毛利氏が事務所に送ってきた手書きの計画書。遠藤晴美はその後参加を取りやめ、5名で7月20日飯豊山荘に宿泊。21日早朝出発。午後3時過ぎ事故発生。

登山計画書

2005年7月6日

三島労山遭対部 布施遭対部長殿

日本勤労者山岳連盟、静岡県勤労者山岳連盟　下山連絡先電話　下記

団体名　三島勤労者山岳会　氏 名　布施直之（三島勤労者山岳会遭難対策部長）

所在地 〒411-0907 駿東郡清水町伏見578-1　住 所　静岡県三島市柳郷地76－4－202

電話, FAX　055－972－3595　電 話　布施自宅 055-981-6577（携帯090-7793－1572）

代表者　白井聖男　救助体制　（ある）（名）　なし

目的	東北の山旅	登山形態	(縦走), ピークハント, 岩, 沢, (雪), 氷壁, 車
山域山名	飯豊連山縦走	宿泊形態	日帰り, 車宿, 登山口幕営, (小屋泊（　）)
山行主催	会, 部, (遭), 連, その他団体（　）	交通手段	自動車（　）新幹線 外 (電車) 他（　）

参加者名簿

任務	氏名	年齢	血液型	遭対基金	住所	自宅電話 FAX	緊急連絡先
CL	毛利哲也	72	A	5			〃
SL	藏元眼子	62	O	3			〃
	尾崎則子	62	O	3			〃
	荒村政和	70	A	3			〃
	井上知子	61	A	3			〃
	遠藤晴美	63	O	3			〃

→飯豊山荘泊

日付	行動予定期間 月日	予備日　日	救助隊出動期限　日20時までに連絡無い場合
7/20	三島発より新幹線7時55分 東京9時 山形新幹線つばさ9時30分 米沢11.50 山形13.30		
7/21	飯豊山荘発6時発 三島平～梅花皮沢～北合～石転び沢～梅花皮小屋泊 バス14.43→		
7/22	梅花皮小屋発6時 ～烏帽子岳～御西小屋～御西小屋泊（大日岳）		
7/23	御西小屋発6時 ～飯豊本山～切合小屋～三国岳～地蔵山～川入 民宿泊		7/24

概念図

装備　ヤイバレ、ストック、シュラフカバー、雨具、防寒着、手袋、着替え、
食料
コッヘル、コンロ、ガス（大）
中！タント
山中2泊　行動食3食　朝2、夕2の食料　ドライフルーツ、ラーメン等

非常時対策　その他
雨の場合山荘の小屋に。
川入からはタクシーで喜多方→会津若松→郡山より新幹線で東京→三島。

飯豊山荘（410米）— 8.5K 6時間～7時間 — 梅花皮小屋 1,800米 — 7K 6時間 — 御西小屋 1980米 — 2.5K 1時間 — 本山 2105 — 8K — 川入

谷川連峰で2人死亡

単独行の1人不明　荒天に登山、7人救出

八ケ岳、遭難の3人死亡

3/21 アサヒ

長野県の八ケ岳連峰阿弥陀岳（2805㍍）で遭難した男女3人のパーティーは20日、搬送先で死亡が確認された。死亡したのは東京都江東区大島1丁目、会社員長倉久敏さん(57)、横浜市神奈川区松見町4丁目、会社員竹内雅雄さん(47)、東京都板橋区板橋1丁目、従業員茂木みどりさん(45)で「東京アルコウ会」のメンバー。いずれも凍死だった。

武藤さんによると、九人は十八日に入山。中腹で一泊して十九日に仙ノ倉山山頂から万太郎岳へ縦走、二十日に下山する予定でした。

十九日正午ごろ、最後尾から二番目を歩いていた阿部みよ子さん(ここのリュックのカバーが風で飛び、最後尾の安室民江さん(同)が直すのを手伝いました。前方の七人はそれに気付かず、午後零時半ごろ、二人の姿が見えなくなっているのが分かりました。

当時は風速二〇―三〇㍍の強風が吹き、吹雪のため視界は十―二十㍍しかありませんでした。武藤さんらは二人を探しましたが断念し、テントを張って泊まりました。二十日は二人を探しながら下山する途中、百㍍ほど上の方で阿部さんが雪に埋もれているのを発見したといいます。

阿弥陀岳山頂付近の急斜面で救助活動する捜索隊＝20日午後0時55分、本社ヘリから、大野明撮影

3/22 アカハタ

長野地方気象台によると、十九日は低気圧の通過に伴い、一帯は時折、最大瞬間風速二〇㍍以上の突風が吹く大荒れの天気となりました。近くの野辺山観測地点では、同日夜、零下九・二度を記録しており、遭難現場では「同一五度以下になったとみられます。

皆で今回の遭難を考えてみよう

1. 計画に無理は無かったか・・・・・登山は全て計画で左右される。
   計画は十二分検討されたか。
2. パーティーの体力は問題なかったか・・・・・体力に合った登山をしたか。
3. 装備は問題なかったか・・・・・スコップ1本あれば雪洞が掘れる。
   季節・状況に合った装備で行ったか。
4. 引き返す勇気は無かったのか・・・・18日（土）八方尾根で知り合った
   相模の中高年組10名は19日悪
   天候が分かっていたので下山した。
   「また、来よう」と。
5. 気象を何処まで把握したか・・・・・19日の悪天候は分かっていた筈。
   最終判断はいつ・どこで。